

問 題		得点率 (%)	問 題		得点率 (%)
1	問一	92	2	問一	65
	問二	68		問二	21
	問三	38		問三	42
	問四	29		問四	79
	問五	8		問五	27
	問六	76		問六	21
	問七	70		問七	87
	問八	27		問八	79
最高点					79点
最低点					27点

1 出典：好井裕明 『「今、ここ」から考える社会学』

問一 例が本文の中で、何を意味するのかを考える問題です。

問二 「生身の他者」というポイントを多くの生徒は書いていました。ただし、その先にある、「今、ここ」で向きあうことで何が得られるのかについては、答えられていない解答が目立ちました。

問三 正答率の低い問題です。本文に使われている語句が入っている選択肢に惑わされた生徒が多かったようです。

問四 傍線部(4)の後に、渋谷のスクランブル交差点の例があり、その例を踏まえて筆者は論を展開していることに注意すべきであった。98行目を用いて「類型」として他者を理解するための知識を駆使している、と書いた生徒が目立ちました。ただし、100行目では「目の前にいる他者を理解するためだけでなく」とあり、もう一点、「各場面で、“適切に” ふるまうための「処方箋」としての中身も含まれています」と書かれていることにまで気がつかないようでした。107行目では「 」でくられて「類型的」知、「処方箋」としての知とあるように、これらは並列関係であることに気が付くのは難しいことではないと思われます。キーワードは「 」でくられることが多いことを知っておくと、文章の構造を理解する時に訳に立つと思います。

問五 傍線部(5)が「こうした」とあるので直前の「ただ『交差点を渡る人』」として認識すると書いた生徒が多かった。しかしながら、ここでは、具体的な解答を求めているわけではなく、それを一般化するとどのようなことを説明すべき設問でした。また「類型的」とは何かを説明する問いなのに、「類型」を用いている答案も目につきました。

問六 接続詞を問う問題です。段落相互の関係を正確にとらえる必要があります。

問七 漢字の書き取り問題です。よくできていました。

問八 本文の内容に合うものを探す問題です。本文では述べられていないことや、内容を限定しすぎているものなどを除外することで正解を選びます。

② 出典：三輪裕子『優しい音』

問一は4頁上段1行目傍線1「千波と澄香はいつも連れだって歩いているようになった。」ことにより生じる環境の変化に対し、千波が感じたこととしてふさわしい内容を選ぶ問題です。4頁上段12行目からの連続する2つの段落で、千波の中には「晴れがましい気分」、つまり気恥ずかしさと、「居心地のいい所でもなく」という感覚が内在していると判断できるため、正解はウです。アは「清々しさ」、イは「自分が主役になったような高揚感」、エは「劣等感」がそれぞれ本文の内容と食い違うため、誤りです。

問二は4頁上段19行目傍線2「間違ったこと」を説明したものととしてふさわしくない内容を選ぶ問題です。4頁上段21行目から始まる委員決めのエピソードを確認すると、「千波がクラスメイトに声をかけて、澄香がクラス委員になれるように取り計らう」という内容は書かれていないため、正解はウです。

問三は4頁下段40行目傍線3「今回だけは、自らすすんで図書委員に立候補しようと。」の理由を説明する問題です。4頁下段55行目から63行目までに千波の考えが記されているので、「やりがい」と「引継ぎ」の2点をまとめて記述します。設問に合わせて、文末は「～から。」とする必要があります。「やりがい」と「引継ぎ」の片方のみしか説明できていない答案が目立ちました。

問四は空模様に関連する慣用句の問題です。一はア、二はウ、三はエ、四はイ、五はオです。

問五は5頁下段102行目傍線5「頭にカーッと血が上った。」ときの千波の様子を説明する問題です。「頭に血が上る」という表現は興奮など感情が高まったときに使用される表現であることを念頭に、傍線5以降を読み進めると、同103行目「夢にも思っていなかった。」や同106行目「一体どうして……。」といった表現が出てきます。よって、ここから動揺という様子を読み取ります。「頭に血が上る」を画一的に「怒り」とした答案が散見されるなど、文脈に則して言葉を理解することができたかどうか問われる問題でした。

問六は6頁上段150行目傍線6「心の中はすっきりと晴れなかった。」の理由を説明する問題です。直前に、亜矢と澄香に声をかけられたことで「ホッとしたものの、」という前置きがあることから、亜矢と澄香からの声掛けの内容は、千波の心の中が晴れない原因と関連していると考えられます。よって、6頁上段134行目から始まる連続した2つの段落で感じた、亜矢への「申し訳ないことをした」という気持ちと、澄香に「批判されたような気がした」という2点が、千波の中ではまだ解消しきれていないと判断します。設問に合わせて、文末は「～から。」とする必要があります。亜矢か澄香か、どちらかにしか言及できていない答案が目立ちました。

問七は空欄A～Dに適切な語句を入れる問題です。Aがイ、Bがア、Cがウ、Dがエです。

問八は本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。5頁下段119行目から始まる連続した2つの段落の内容と一致するエが正解です。アは「後でそれを嘆いてしまう」、ウは「常に自分がすべきことや正しいと思うことは何かを考え」が本文に書かれておらず、イは「自分なりの意思を持てずにいる」が本文の内容と食い違っています。